

食とエネルギーの地域自給へ 市民の力を結集しよう！

「ゆずの学校」に薪ストーブ設置 木質バイオマス資源利活用事業開始

10月中旬から開始した、「木質バイオマス資源利活用事業」（環境省「地域活動支援・連携促進事業」）は、「エネルギーの地域自立」へむけたモデル的事业です。

この事業を進める主体は「わかやまエネルギー自立化推進コンソーシアム」。このコンソーシアムには、田辺市でかねてよりバイオマスの利活用に取り組んできた「紀南地域温暖化対策協議会」、木質バイオマスを活用したシイタケ・エリンギ栽培に取り組む

「株式会社石橋」、特産品ゆずで地域の活性化を実践している「古座川ゆず平井の里」などが集まり、事業内容としては、「古座川ゆず平井の里」の薪ストーブ設置と薪の供給システムづくりを支援します。



コンソーシアムは、11月17日、「エネルギー自立化への検討学習会」を開催し、「地産地消による地域の自立」「森林資源利活用の実践」「県内の木質バイオマスのエネルギー活用実態」などを報告し合い、現状と方向性を確認しあいました。

そして11月30日、ゆず平井の里にモキ製作所MD80型の薪ストーブが設置されました。

燃え盛るストーブの炎は暖かく、またある種の懐かしさを感じま

す。理事長の新谷氏は、「周辺に森があり、木があるのに活用できないのは理不尽」「ストーブで木を使う量はたかがしれてるが、木を使う古くて新しい文化が広がれば、きっと地域は活性化する。『限界集落』なんて言葉は使わせない！」と、このモデル事業に期待を寄せています。

この間、紀南地域では「木質バイオマス利活用研究会」を、伊都橋本地域でも「サステイナブル・ソサイエティー研究会」をたちあげ、地域に根ざしたエネルギーのあり方を模索し、学習会や見学会を実施しています。また、「みんな笑顔の熊野プロジェクト」（ミンクマ）が、和大的中島教授などの呼び掛けで組織され、「自然エネルギー、資源を活用した、自立した、自然も、文化も、経済も豊かな低炭素地域づくり。エコロジカルで、自立した、災害や不況に強く、暮らしやすい『強い』『安心できる』地域づくり。そのための『助けあう』『育ちあう』しくみづくり」などのかかげて、活動をはじめています。各自治体でも様々なとりくみがなされています。

WeNETは今期、「持続可能な地域づくり」に向けて3回の講座を、高等教育機関コンソーシアム和歌山の公開講座として開催してきましたが、「中長期的な低炭素地域づくりビジョン」を提言していくことをめざし、実証モデルをさらに積み重ねて行きたいと思えます。そのためにも、「再生可能エネルギー」をテーマに活動する団体・企業・個人を広く結集し、「ミーティング」を開きたいと考えています。（目）

この間、紀南地域では「木質バイオマス利活用研究会」を、伊都橋本地域でも「サステイナブル・ソサイエティー研究会」をたちあげ、地域に根ざしたエネルギーのあり方を模索し、学習会や見学会を実施しています。また、「みんな笑顔の熊野プロジェクト」（ミンクマ）が、和大的中島教授などの呼び掛けで組織され、「自然エネルギー、資源を活用した、自立した、自然も、文化も、経済も豊かな低炭素地域づくり。エコロジカルで、自立した、災害や不況に強く、暮らしやすい『強い』『安心できる』地域づくり。そのための『助けあう』『育ちあう』しくみづくり」などのかかげて、活動をはじめています。各自治体でも様々なとりくみがなされています。

WeNETは今期、「持続可能な地域づくり」に向けて3回の講座を、高等教育機関コンソーシアム和歌山の公開講座として開催してきましたが、「中長期的な低炭素地域づくりビジョン」を提言していくことをめざし、実証モデルをさらに積み重ねて行きたいと思えます。そのためにも、「再生可能エネルギー」をテーマに活動する団体・企業・個人を広く結集し、「ミーティング」を開きたいと考えています。（目）

WeNET理事会で意見交換

11月8日に開かれたWeNET理事会で、東日本大地震、福島第一原発の放射能事故、9月の紀伊半島を襲った台風豪雨など、この間に起こった天災・人災について、また、地球温暖化対策をめぐる世界や日本の状況について議論されました。その中で、当会結成当時に誓い合った「持続可能な循環型地域社会の形成に寄与する」という初心を再確認し、そのための「食とエネルギーの地域自給の活動を、今こそ推進することが重要」との意見が熱く交換されました。



「ゆずの学校」に設置された薪ストーブ
新谷理事長（左）と倉岡さん

秋晴れのもと 『きのかわ環境フェア2011』 開催

11月26日、「きのかわ環境フェア2011」が、秋晴れの下、開催され、市民や関係者約300人が参加しました。

近大の鈴木高広教授による「日本を救う芋エネルギービジネス」と題した基調講演は、遊休農地を活用し、エネルギー源としての「芋」を栽培するビジネスのお話。農業の活性化とエネルギーの自給をまとめてやろうという大変ユニークな発想です。聴衆者からは「おもしろい！」の声。

また、市内小中学校の児童・生徒たちの環境学習や体験、地域の環境調べなどを、4校5組が舞台発表、7校が展示発表。大変すばらしいもので、環境を守り育ててくれる大人に成長することを心から応援したく



なりました。

野外には24のブースが立ち並び、出展した団体同士の交流もさかんに行われました。



紀ノ川流域

継続開催へバトンタッチ
来年度は、伊都・橋本地域で

フェア終了後、参加団体の代表が集まり「ご苦労様会」が開かれました。その中で、「紀ノ川の流域でこうしたフェアを継続開催したい」と、「引き継ぎ式」が行われ、紀の川市協議会の中川代表から、伊都橋本協議会の佐藤代表へバトンタッチされました。来年度は伊都橋本地域で開催の予定です。



11月28日から南アフリカのダーバンで開かれていた気候変動枠組条約第17回締約国会議いわゆるCOP17は、2週間の会期を1日延長したうえ、さらに徹夜の交渉を経て12月11日午前5時に満場一致の合意を得て幕を閉じた。

この会議の使命は、まず京都議定書第1約束期間（2012年まで）が終わった後に空白期間を作らないこと、次いで2013年以降の包括的な制度的枠組づくりへのプロセスを確立することにあった。

これについて同会議は、まず2013年から第2約束期間を開始することで空

COP17合意の歴史的意義と日本

白なく京都議定書を延長することを決定。また2015年までに米中2大排出国はじめ全世界の締約国を含む包括的な法的枠組を作りあげ2020年にこれを発効させることで合意、そのための新たな作業部会を立ち上げることを決定した。

第2約束期間の内容も次なる法的枠組の形式も決まっていはいないし、各国の具体的な削減目標決定など前途にはなお難題が待ち構えるが、とにもかくにも従来の先進国対途上国の対立を越え、世界が参加する枠組づくりに踏み出したことは歴史的とも評す

べき大きな成果だ。最終盤には空中分解の可能性も取りざたされるなか、「アフリカを京都議定書の墓場にはしない」と困難な交渉をリードした議長国南アフリカの粘りに敬意を表したい。

一方、この会議中に世界気象機関が発表したレポートは、大気中の温室効果ガス濃度が過去最高を更新するなど最新の気象データを示し、地球上で取り返



しのつかない激変が起こりうるレベルに急速に近づいている

と警鐘を鳴らした。危機回避に残された時間は短い。人類の運命は、ダーバンの合意を素早く実行できるかどうかにかかっている。

にもかかわらず、京都議定書母国の政府は財界の意向を受けて第2約束期間を拒否。実現可能な対案も示さず、懸命に合意の道を探る世界から完全に孤立した。この世界の孤児というか妨害者の道を歩む政府を変えなければならない。やれやれ…とも思うが、それは日本の環境市民運動にしかできない世界への貢献だ。倦まずたゆまず、発言し続けよう。

(重 栖 隆)

このコーナーはわかやま環境ネットワークに参加する団体や企業、個人の活動記録と今後の展望を紹介します。

特定非営利活動法人 市民の力わかやま

地域コミュニティを豊かにしたいとの有志の熱い思いによって「わかやまインターネット市民塾」が2004年に産声を上げました。その後、地域情報の収集発信、地域づくり・人づくり・まちづくり支援など様々な事業を併せて行うようになり、名前も「市民の力わかやま」に変更し、和歌山県を元気にしたいと頑張っています。私たちの主な活動をご紹介します。

★ わかやまインターネット市民塾

インターネットを利用して、誰でも講座を受講・開講できる場所。実際に参加する対面講座も開催中。私たちの活動はこの市民塾から始まり、現在でも中核となる事業です。パソコン塾・テレワーク塾・Webデザイン塾・IT塾・環境講座・人間講座・農業講座・就業支援塾・まちづくり塾・ふるさと塾・文化芸術塾等々、



テーマごとに個性あふれる講師陣がユニークな講義を展開しています。(重栖隆さんの環境講座などは必見！)

★ わかやまイベントボード

個人、団体、公共などが主催するイベントを自らが入力しPRできる、みんなで作るサイトです。和歌山県NPO協働モデル事業としてスタート。現在は「市民の力わかやま」が自主運営しています。



★ きのくに風景讃歌

和歌山県内にある誇るべき素晴らしい景観や町並み、建造物、文化遺産などを後世に継承すべき宝として見出し、県内外に情報を発信・共有するサイトです。ふるさとフォトグラファーのページでは広く皆様からの写真の投稿を受け付けています。



★ 日本風景街道熊野

紀南地方の地域住民お勤めの「耳より情報」が満載！紀南地方の活動団体と交流・連携して「地域住民ならではの生きた情報」を基に作成しています。

★ チャレンジャーイン和歌山

2007～2009年度文部科学省「実践型学習支援システム構築事業」で実施した少人数制のパソコン教室:チャレンジ塾などを2010年度以降、自主事業として運営しています。格安・大人気の講座です。

★ まちづくり事業

2006年以降、まちづくり研究会、まちづくり講座等を継続して実施し、他の事業と連携しながら、各地のまちづくり支援等を行っています。

★ テレワークの推進

ワークライフバランスを推進し、育児、家事や介護などと両立しながら、在宅で仕事をする「テレワーク」。「市民の力わかやま」では、テレワークの機会を創出し、また事務局員自身も「テレワーク」を利用した働き方を実践しています。またテレワークに必要な技術を習得できるよう、パソコン講習、eラーニング学習指導等を行っています。

★ その他

様々なまちづくり・パソコン・農業関係の講座やフォーラムを開催してきました。また、子ども向けのインターネット学習教材として「e手仕事図鑑」を作ったり、「ジョブカフェわかやま」と協力したり、若年者のインターンシップ希望者の受け入れをしたりしています。



2011年 農業フォーラム開催

市民の集う場へ、みなさんどうぞお越しください！

URL <http://shimin.or.jp/>
E-Mail info@shimin.or.jp

事務局だより

11月に開催された理事会で、わかやま環境ネットワーク設立以来、事務局長として奮闘いただいた前岡正男氏が、諸事情のため勇退され、新事務局長に目（さっか）祐二郎が後任に任命されました。

長きにわたりご苦労された前岡さんに、心から感謝を申し上げます。同時に、前岡さんは引き続き理事としてご奮闘いただくこととなりましたので、私ども事務局メンバーへのご指導・ご鞭撻をお願いしているところです。

さて、今年一年は、東日本大震災と福島第一原発事故による放射能災害、そして9月の豪雨災害と、大災難が私たちを襲いました。復旧・復興が急がれるところですが、なかでも放射能被害は数十年単位でその対策を必要とするでしょう。

いま、原子力エネルギー依存からただちに脱却し、再生可能エネルギーの普及拡大へ大きく舵を切ることを望む声が大きくなっています。同時に、ものやエネルギーを大量消費する生活を改めなければとの意識も、「節電」という形を通してではありますが、強くなっていると思います。

それは、私たちが、地球温暖化防止活動の県センターとして、また、持続可能な地域社会づくりをめざすNGOとして、まさに出番が到来していると自覚する昨今でもあります。

この一年のみなさまのご活躍に、心からの敬意を表すとともに、今後とも、私どもの活動へのご協力をよろしくお願い致します。

インフォメーション

■わかやま学講座

「暮らしのエネルギーと快適環境」

講師：藤井雅雄氏（近大生物理工学部教授）

12月21日（水）19：00～21：00

和歌山市NPOボランティアサロン

連絡先：NPOわかやま環境ネットワーク

073-432-0234

■奈良の市長たちが語る これからの環境政策

2012年1月14日（土）13：00～16：30

奈良県文化会館2階AB集会室

基調報告：「温暖化対策の地域・自治体の役割」

浅岡美恵氏（気候ネットワーク代表）

主催：サークルおてんとさん

■災害に強い地域づくり「自然エネルギーの役割」

2012年1月21日（土）13：00～

県立情報交流センター ビッグU多目的ホール

主催：紀南地域温暖化対策協議会

○第一部「災害に強い地域とは、どのような地域か」

報告者：並河哲司氏（新宮市議）

大野航輔氏（森のエネルギー研究所員）

浦上健司氏（地域計画コンサルタント）

大場龍夫氏（森のエネルギー研究所代表）

○第二部パネルディスカッション



菱茶屋前のモミジ。(橋本市 石川純二氏提供)

紀州のおひさまと大地の豊かな恵みたっぷり！
化学農薬も化学肥料も使わずに栽培した
旬の有機野菜や有機くたものを
近隣の農家がお手頃価格でお届けします！

●ふうど市(直売市)開催●

特別歳末市

12月27日(火)

11:00～13:00

場所:和歌山有機認証協会 事務所前
(和歌山市小松原通3-22)

※NHK和歌山
北ななめ向かい

*** 出荷予定農産物 ***

黒豆、大豆、小豆
春菊、水菜、小松菜、からし水菜、高菜
イタリアンパセリ、ルッコラ
なばな、オータムポエム
ほうれん草、白菜、キャベツ
わけぎ、ねぎ、下仁田ねぎ
レタス、フリルレタス、リーフレタス、サンチュ
にんじん、大根、ラディッシュ、カブ
かぼちゃ、安納いも、さつまいも、里いも
しいたけ、エリンギ、キウイフルーツ
※みかん、はっさく(あれば...)

…など、旬の農産物を農家さんが直売します！
※収穫状況により出品物の変更があります。

ブログ: <http://foodoo.seesaa.ne.jp> ツイッター: @teikei_fuudo

※売切れ御座りとなります。
※暴風・大雨等警報が発令時は、中止となります。

『生産提携倶楽部 ふうど』(和歌山有機認証協会内)
〒640-8269 和歌山市小松原通3-22 TEL: 073-421-6546
e-mail: wocai@vaw.ne.jp



ういねっと (わかやま環境ネットワーク通信) 第26号 (2011年12月14日発行)

発行: NPOわかやま環境ネットワーク

代表理事 重柄 隆

〒640-8269 和歌山市小松原通3丁目22

電話 073(432)0234 FAX 073(432)3881

mail: wenet@vaw.ne.jp

http://wenet.info/